

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000945		
法人名	有限会社Human-Effort		
事業所名	グループホーム自由の樹		
所在地	北海道小樽市最上1丁目36番4号		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム自由の樹は四季の移り変わりを肌で感じる事が出来る天狗山のふもとにあり、裏庭からは川の流れる音も聞こえてくる自然豊かな場所でもあります。理念にもある地域との交流も盛んであり、保育園児や高校生がホームに来訪してお御輿や踊りの披露を行って頂いています。毎日が同じ生活になる事が無い様に、四季を通じたレク行事や駐車場を利用したバーベキューも行って御家族様と一緒に楽しんでいます。「入居者も職員も幸せになれるホーム」という法人の理念を達成できる様に色々な方の力を借りて職員一同努力しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172000945-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム自由の樹は、バス停から2分の便利な住宅街に位置しながら騒音も少なく、天狗山を背景に山や川に囲まれ、四季折々の美しさが楽しめる環境に有ります。運営母体は、「安心」と「自由」を基本に、小樽市内に4つのグループホームを開設しており、互いに連携を取りながら、社内研修やテレビ会議を通じて情報交換を行い、職員はスキルアップに努めています。理念の中の「みんなと一緒に笑顔で」「安心したその人らしい生活」を職員は常に考え、職員同士が助け合い、日々笑顔の絶えないケアサービスの実践に取り組んでいます。近隣住民との交流も盛んで、冬はホームの除雪を手伝って下さいます。高校生の社会体験学習や保育園児の定期訪問を受け、紙芝居や踊りを披露して頂き、利用者の楽しみ事となっています。ホーム主催のバーベキュー会にも、家族、系列ホームの職員とともに地域住民の参加協力を得て交流を深めています。ホームは、家族の思いに沿った看取りを支援するために、医療連携体制の下、職員が一丸となり取り組み、家族に感謝され絆を深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で決めた5項目からなる理念を掲げ職員がいつでも確認できる様にネームプレートの裏に記入している。管理者と職員は全体会議を通じて理念の共有を行い実践している。	開設後に地域密着型サービスの意義や役割を考えて、職員全員で理念を見直しています。パンフレットや広報誌に記載し啓発に努めています。職員が理念に沿ったケアサービスを実践するために、全体会議や研修時に理念について考える機会を設けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学生や保育園児が定期的に訪問して頂き紙芝居や歌や踊りを見せて下さる。保育園で作成した作品も入居者に渡したりもして下さっている。	町内会に加入し、近所の方がいつも訪問して下さり、除雪も手伝って下さいます。高校生の社会体験学習や保育園児の定期的訪問を受け、紙芝居や踊りを披露して頂き、利用者の楽しみとなっています。ホームでは、介護や認知症相談も行っています。	町内会から、利用者の行事参加を促されておりますので、家族やボランティアの協力を得ながら参加を実現し、地域住民との交流に積極的に取り組むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ認知症の方々への理解や支援方法を共有している。玄関先やホームページ、パンフレットには介護相談を承りますとの文面を掲示してホームが身近な存在になるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しホームや会社としての取り組みを報告している。会議には町内会長や地域包括職員、家族代表も参加され忌憚のない意見交換を行っている。議事録はホーム内に掲示する他、家族にも送付している。	運営推進会議は定期的に開催しています。ホームの運営や利用者の状況、活動報告、外部評価結果報告などが協議され、サービス向上に繋がっています。また、感染症対策など参加者にも関心あるテーマを提供しています。議事録は家族に配布しています。	ホームは、議事録を家族に配布するなど、運営推進会議への関心に繋げる努力をしておりますが、更に魅力ある議題の提供や日程の調整など、家族が参加し易い環境作りを検討し、多くの家族参加を促す取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や問題点が生じた場合は小樽市の介護保険課、生活支援課、包括支援センターに相談や確認を行っている。運営推進会議にも出席して頂いている。	介護保険課や生活支援課とは、個別の案件について、その都度協議しながら対応し、協働関係を築いています。グループホーム協議会や介護保険課で行われた集団指導研修会などで、情報交換や交流を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加して得た情報を内部研修を通じて職員間で共通の認識として身体拘束をしないケアの実践を行っている。夜間を除き玄関の施錠は行わず外出がいつでも行えるように支援している。	管理者、リーダーは職員一人ひとりに、ケアサービスでの不適切な行為については事例を挙げながら確認し、指導しています。外部研修を受けた職員は、内部研修時に発表し、情報を共有しながら身体拘束の弊害について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を通じて虐待の種類を全職員が理解できるように情報交換を行っている。日々のケアを振り返る事により虐待の防止にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する情報収集を行い知り得た情報を職員間で共有できるように研修を行っている。成年後見制度を利用されていた方からの体験談も聞き入れている。制度に関心がある家族には情報提供を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約内容が理解できるように分かりやすく説明を行い安心して入居して頂けるようにしている。契約後でも疑問点がある場合には十分な説明を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的な家族との連絡時にはお互いに情報交換を行い意見や要望を聞き入れている。結果については全体会議等を通じて職員全員が周知できるようにしている。ホーム内に意見箱も設置している。	ホームは、家族との交流を深めるために、毎月定期的に電話連絡を行い、利用者の状況を報告し安心に繋がっています。家族の来訪も多く、職員は話し易い雰囲気作りに努めて意見や要望の聞き取り、内容は支援経過記録に残して職員間で情報を共有しています。ホーム便りも送付し喜ばれています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的開催され主に管理者が出席するテレビ会議を通じて、現在起きている問題や職員の要望等を代表者に伝え解決に向けて取り組んでいる。代表者も研修の機会を通じて意見を聞く機会を設けている。	管理者は、日常のやり取りや申し送り時などで職員の意見や提案を聞き取り、運営に反映させています。運営者とは、毎朝のテレビ会議にて、提案の検討も行っています。更に、運営者が主催する研修会では、直接職員の意見や提案を聞き入れる機会があり、運営に活かされています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や資格に応じた給与体系になっており、職員が長く勤務出来るように努めている。有給休暇も定期的に取得できる体制も整えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に1回程度ホーム内にて勉強会や研修報告会を開き情報の共有を行い日頃にケアに繋げている。外部の研修にも参加する機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市のグループホーム相互間研修や系列のグループホームとも交流を図りサービスの向上を行っている。協議会主催の会合にも参加している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人との面談の機会を設けて、今後の生活について心配事ややりたい事を聞き不安なくホームでの生活が行える様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に今後のキーパーソンとなる方を中心に面談を行い、今後の生活についての要望を聞き良好な関係づくりを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望で一番重要な事を理解して臨機応変に対応している。保険証の更新や住所変更の手続きを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の体調面を考慮しながら出来る事を見つけ行って頂き生活のメリハリを付けている。お手伝いの後には感謝の気持ちを込めて挨拶を行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を（体調面、精神面）報告し困難な事がある場合には相談を行っている。行事がある場合には声掛けを行い都合がつく方には参加して頂いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を尊重して友人、知人との関係が今後も継続できるよう支援している。誕生日やレクの行事を通じて馴染みの場所にも行けるようにしている。	知人や友人の来訪時には、お茶で持て成し歓迎しています。利用者の娘さんが美容師で、職員が同行して整髪しています。誕生日には、利用者の希望を叶えて、外食や親せき宅訪問など、職員同行で、馴染みの関係継続支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の意思を尊重しながら職員が良好な関係が保てるように日課活動への参加や体操を行ない交流の場を増やしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も本人や家族が不安になる事がないように他業種とも連携を行い相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のカンファレンスや担当者会議の中で入居者の希望や意向の把握を行っている。訴えが困難な場合でも本人の意向になるべく添うようにしている。	職員は利用者一人ひとりと関わる時間をもち、傍に寄り添い様子を見ながら、思いや意向を汲み取り把握しています。日々の申し送りや担当者会議にて、職員は情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活が持続出来る様に居室内にも馴染みがある掲示物や仏壇を置いている。身の回りの物に関しても使い慣れた物を使用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の出来る事、出来ない事を考慮して残存機能を活かしその人らしい生活が送れるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時にはサービス担当者会議を開催して本人、家族、看護師、医師等の意見や要望を取り入れている。定期の時期以外にも必要があれば見直しを行う場合もある。	職員は、日々のケアサービスの中で、現プランが利用者のニーズに合っているかモニタリングを行い、全職員で検討しています。見直し時には、利用者、家族、医師の意見要望を反映させ、ケアマネジャーが作成しています。定期見直しは3ヵ月で、短期で2ヵ月、長期で5ヵ月の期間でも実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、バイタル測定値等の入居者の体調管理に必要な項目が一目で分かるように記録を残しており職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に家族が住んでいる方や諸事情で事務手続きを行う事が困難な方には介護保険証の更新等の手続きを行っている。入居時には引っ越しの手伝いも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園や高校生との交流を定期的に行っている。年2回以上消防署員立ち会いにて避難訓練を行い防災面での助言も頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向を優先して今までの主治医との関係が継続できる様に支援している。継続が難しい場合には希望が一番合う提携医院を紹介している。	殆どの利用者は協力医を利用しており、月2~3回の往診と週2回以上の看護師職員の支援により健康管理に努めています。他科の受診は、職員が同行介助しています。受診内容は、定期連絡時や訪問時に報告し、緊急時は随時連絡しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師が週2回以上訪問し日常生活の様子を報告して指示を受けている。訪問看護師にも同様に報告を行い助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的にお見舞いに伺い入居者の体調確認を医師、看護師等と行っている。面会時以外でも情報の共有を行い安心して治療が受けられるような支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には日常の体調管理、重度化した場合の対応を説明している。実際に終末期を迎えた場合には、入居者や家族が望む事を最優先して医療との連携も含め支援している。	重度化した場合の指針及び看取りに関する方針の書類を整備し、入居時に説明を行い、同意書を得ています。ターミナルケアマニュアルを整備し、職員は研修を受けています。ホームは既に看取りを経験し、実践、経過も記録しており、職員の学びの資料となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護師にアドバイスを頂き心肺蘇生やAED使用方法を確認している。管理者が中心となり急変時の対応方法を確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いの避難訓練の他に自衛の避難訓練も行い全職員が災害時の対応が出来る様にしている。運営推進会議等を通じて地域の方にも参加して頂いている。	消防署立ち合いの下、年2回避難訓練を地域住民の参加を得て実施しています。更に、自主訓練も行い、全職員が避難方法を身に付ける様に取り組んでいます。地域避難場所も家族に周知しています。水、食料、ラジオなども準備しています。	更なる取り組みとして、火災以外の地震、供水、台風、暴風雪などの自然災害や停電、断水も想定した訓練を期待します。備蓄品も寒冷期を考慮した防寒着や暖房器具、簡易トイレ、衛生用品、薬品、利用者資料なども準備することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を意識して入居者の人格やプライバシーを配慮した言葉かけを行うような対応をしている。	日常のケアサービスにおいて、入浴時やトイレ誘導の際の声掛けや対応など、利用者一人ひとりの状態に合わせて、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員目線や職員都合にならないように入居者の意思や願いを聞きだし自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムを考慮して快適な暮らしが送れる様に入浴時間や食事形態の変更などを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には入居者の希望する衣類を選んで頂ける様に支援している。外出の際には普段とは異なる衣類を着用して頂き気分転換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや盛り付け等を手伝って頂いている。食器も定期的買い替えを行い飽きの来ないような工夫を行っている。配膳や下膳、テーブル拭きも手伝って頂いている。	メニューは食材配達業者が作成しています。行事食や誕生日にはメニューを変更し、ホーム独自で工夫し、ピццаやケーキを作り喜ばれています。利用者は配膳、食器洗い、テーブル拭きなど手伝い、職員は利用者の食事介助を行いながら、一緒に食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせた食事形態（刻み、とろみ等）を行い食事がしやすい環境を整えている。水分に関してもお茶、水だけにこだわらずコーヒー、ジュースも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後には口腔ケアの声掛けや準備を行っている。入居者にあつた介助の方法を実践している。困難な方には時間を置いて再度の声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムに合わせた声掛けや誘導を行っている。定期的に見直しを行いおむつの使用頻度が減るような工夫も行っている。自立が出来る入居者に関してはさりげなく見守りを行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、排泄のタイミングや表情、動作を見極めながらトイレ誘導の声掛けで、排泄がスムーズに行われ、衛生用品使用量が減り、利用者は快適に過ごしています。職員は、トイレでの排泄を大切に、自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔を記録する事により便秘が長く続く事がないように牛乳や軽運動を行ったりして可能な限り下剤の使用を行わない様に支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	時間や曜日を決めずに入居者の希望に添うような時に入浴が行えるようにしている。午前中から入浴を行う時もある。	入浴は希望があれば、毎日でも入浴出来る体制が整っています。浴室の壁は明るい配色で、入浴時は浴室を温めたり、入浴剤を使用するなど入浴を楽しめる工夫をしています。また、入浴時はゆっくり行動し、まめに声掛けを行い、確認しながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に負担のない範囲で日中は居室やリビングにて生活して頂き適度に休息を行って頂いている。夜間に関しても職員都合での就寝させる事のないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を綴っておく事により薬に関する情報を一目で分かるようにしている。処方薬が変更になった場合には状態の変化にも注意して医師、看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの中にだけ閉じこもる事の無い様に定期的にレクリエーションを行っている。日常生活の中入居者に合った日課活動や作品作りを行って頂き気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やレク行事などを実施してホーム内だけの生活にならない様な支援を行っている。夏季には近所への散歩や裏庭を使用した家庭菜園を行っている。	季節の行事では、花見や紅葉狩りなどに出かけています。外出レクリエーションでは、他のディサービスに参加したり、大型スーパーに買い物に出かけています。夏場には、散歩や家庭菜園の作業など、外気浴を楽しんでいます。個別では、家族の協力を得て、墓参りや選挙、温泉にも出かけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には家族同意の中で本人にお金を持って頂いている。買い物に出掛けた時には自分でお金を使用してもらう場合もある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合には電話での交流を行い気分転換を図っている。定期的に家族との手紙のやりとりを行っている方もいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	喫煙所には空気洗浄機を設置して喫煙しない方への配慮を行っている。共用で使用する場所の清潔保持に努めて時間毎に消毒や清掃を行っている。入居者手作りの作品を展示して季節感を出す工夫も行っている。	ホームの中心に台所、食堂兼居間、職員事務所があり、窓が大きく裏山の景色が一望出来ます。共有空間の清掃に気を配り、特にトイレの清掃、消毒は3時間おきに行うなど衛生面に注意を払っています。湿度、温度も調整され、異臭も無く、快適な空間となっています。壁には、手作りカレンダーや絵や習字など、利用者の作品が飾られ、安らげる場となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂などの共用空間に置いて利用者同士が気楽に会話を行ったり気分転換の場になる様に工夫を行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の前には本人、家族と話し合い今までの生活が継続できるように使い慣れた物を持ち込んで頂ける様にお話をしている。仏壇を置いて毎日お参りしている方もいる。	居室には、タンス、ベット、テレビ、仏壇など持ち込み、それぞれに個性的な部屋を作り上げています。壁には、絵や写真、カレンダー、時計を飾り、人形やぬいぐるみなども持ち込み、利用者が安心して過ごせる空間になっています。仏壇には、毎日ご飯を供えてお参りしている利用者もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内にカレンダーや時計を数か所に設置して安全面を考慮し自立した生活が送れる様に工夫している。			